

福島の進路

No.507

2024 NOV

11

TOP Interview トップインタビュー

公立大学法人会津大学 理事長兼学長 東原 恒夫

女性経営者に聞く!

須賀川瓦斯株式会社

代表取締役社長 橋本 直子

寄稿

ふくしまのミュージアム②

いわき市立美術館

調査レポート

福島イノベーション・コースト構想への
支援機関の関わり





福島の進路

CONTENTS

TOP Interview トップインタビュー

2

地域と世界をつなぐ架け橋に ― グローカルな大学を目指して

公立大学法人会津大学 理事長兼学長 東原 恒夫

女性経営者に聞く!

12

どうせやるなら、笑顔で

須賀川瓦斯株式会社 代表取締役社長 橋本 直子

寄稿 ふくしまのミュージアム②

17

いわき市立美術館

調査レポート

21

福島イノベーション・コースト構想への支援機関の関わり

～福島イノベーション・コースト構想の現状と支援機関の在り方について～

福島県の取り組み・施策シリーズⅣ

26

県南・相双地域間のアクセスが向上しました

福島県道路公社

地域の魅力

29

～東北の玄関口～ 自然を愛し、郷土の歴史を紡ぐまち

南会津町長 渡部 正義

福島経済マンスリー

32

県内経済は、公共投資や住宅投資が低い水準にあり、全体的に弱含みで推移している。

電子ブック版では福島経済マンスリー詳細版と以下の内容を含めた全ての記事をご覧ください。

県内復興・経済日誌（2024年9月）、主要経済指標

TOP Interview

トップインタビュー

第7回

聞き手／矢吹光一

一般財団法人とうほう地域総合研究所 理事長

東原
恒夫

公立大学法人会津大学

理事長兼学長

地域と世界を つなぐ架け橋に —グローバルな 大学を目指して

開学30周年を超えた会津大学を、もっともっと福島県民の皆様に知っていただくため、東原理事長のご経歴・人となりや、大学の取組みについて、お話しいただき、今後、県内、全国、グローバルに向けて、大学がどのように関わり、人材輩出を行っていくのかというところについてお聞きしました。

1. プロフィール（生い立ちから三つのキャリア）について

矢吹 ● まずは、理事長のプロフィールですが、会津大学にいらっしゃる前は研究者だったそうですが、その辺りのところをお聞きしてもよろしいでしょうか。

束原 ● 私は会津若松市出身で、父親が教員の家庭で育ち、高校卒業まで同市で過ごしました。因みに束原という姓は会津でも昭和村でしか使わない苗字です。

矢吹 ● 理事長の系譜は昭和村なのですね。

束原 ● はい、父親は昭和村出身です。私は子供の頃からアマチュア無線が好きなラジオ少年で、小学校6年の3月にアマチュア無線技士の資格を取りました。その後、会津高校から、東北大学工学部応用物理学科に進学し修士まで行きました。元々、電子工学、無線工学、物理に興味があり、会津高校で湯川秀樹博士の特別講演を聞いて、物理への興味が強まりましたが、担任の先生から理学部物理より工学部応用物理を勧められました。「工学部は潰しが利くよ」と言われたことが印象的で、工学部を選んだのですが結果的に良かったと思います。卒業後は研究室の先生が、旧日本電信電話公社（現 NTT）から来られたご縁もあり、1981年4月同武蔵野電機通信研究所に入社し半導体部門（後の LSI 研究所）に配属されました。その後、1993年2月 NTT 無線システム研究所も経験し、一貫して通信システム用半導体集積回路（LSI）の設計（特に無線通信向け）に従事しました。博士号は東北大学大学院に社会人特別選抜で1年間学生として在籍し、2001年に工学博士を取得しました。NTT では50歳を超えると別の進路を選ぶ必要があり、進路は大学教員、関連会社、他の民間企業等に分かります。研究や教育を続けるためには大学だろうと思い、進路を決めました。なお、大学への転身には博士号が必須のため、退職5年前に取得しました。大学を選ぶ際に2年間働きながら（就活と言いますか）色々な大学に応募しまして、会津大学は4校目でした。NTT は2006年3月に退職して、49歳で会津大学コンピュータ理工学部教授へ就任し、第二のキャリアを始めました。会津大学は規模的に大きくない学校なので、一つの部署に複数の仕事があるため、結構忙しかったですね。特に学生部長は誰もなりたくないと思うポジションでしたが、計3期6年勤めて、2020年から理事兼コンピュータ理工学部長を経て、2022年3月に定年退職しました。

矢吹 ● 定年は何歳でしょうか。

束原 ● 65歳です。研究者生活は計41年間で、その内、NTT で25年、会津大学で16年になります。その後、2023年12月から現職（会津大学理事長兼学長）に就き、第三のキャリアを始めました。

矢吹 ● 研究者としての話ですが、NTT さんからずっと研究者として働かれたのでしょうか。

束原 ● 基本的には研究者ですが、研究グループリーダーというプレイングマネージャーを7、8年やりました。

矢吹 ● プレイングマネージャーをやりながら、次のステップとして大学教員を選ばれた理由は何だったのでしょうか。関連会社ならともかく、50歳で転職しようとする、それなりにリスクがありますから、どのような理由だったのでしょうか。

束原 ● 関連会社に行く方が多かったように思います。私は研究職で、営業（技術営業）の経験がなかったので、逆に大学の方がスムーズかなと思ったことと、周りに大学に行った同僚が結構いたのが理由です。

矢吹 ● そういう意味では、大学へ行くという選択肢は十分あるんですね。大学ではどのような研究を続けられたのですか。

束原 ● 研究所でやっていた半導体の研究です。ただし、実際大学はそんなにお金が無いので難しいというか、全然違いました。当時は、半導体をつつ作るのに4、5千万円くらいかかったのですが、大学では相当大きな金額でよっぽど大きなプロジェクトでもないと、同じ研究は難しいですね。

矢吹 ● なるほど。ところで、先生は大学で何を教えていらっしたのですか。

束原 ● 電子回路ですね。回路関係と他に半導体も教えていましたから、週4コマくらい持っていました。授業以外には、ゼミ（研究室）を持っていて、学部の3年生から1研究室に最大4名が配属されます。会津大学は3年次からゼミに入ることが特徴で、研究室毎に3、4年生、修士1年、修士2年と一緒に研究テーマに取り組むのですが、専門的な内容なので3年生は最初の内、結構負担だと思いますね。

矢吹 ● もう一つ、先ほどのお話にもありましたが、担当された学生部長はどのように大変だったのでしょうか。

束原 ● 学生部というのは学生課のことですが、入試から就職まで全部含まれていて、毎日何かしらトラブルが発生します。大学院を含めて学生数は1,200~1,300人くらいで、全国から来ているし、外国人の先生が多いこともあって、教員と学生のトラブルもありました。コミュニケーションの問題でしょうね。

2. 教育理念について

矢吹 ● 学生は、どういう希望や将来構想を持って入学されるのでしょうか。

束原 ● 日本人の学生は男子が多いので、ゲームやプログラミングが好きな学生が多いですね。最近では、少し学部の留学生が増えたので、国際的なものに興味を持つ学生が増えてきたように思いますが、メインはゲームやプログラムに興味のある学生達です。

矢吹 ● 将来的にクリエイターになりたいと思って入学されるのですか。

束原 ● そうですが、本当にそこまで行く人は少ないと思います。

矢吹 ● それでも、ゲームやコンテンツやアプリケーションを作る側（グローバル企業を含む）に就職する学生は相当数いらっやる。そこで自分のやりたいことができている訳ですね。

束原 ● そうですね、その辺りが結構活躍している分野です。卒業生、OBの話を知ると、「大学でやったことが役に立ってますよ」という話があって、非常に伸び伸びと働いている感じがします。

矢吹 ● 開学以来、約8千人が巣立っていて、その中には会津のために役立ちたいとか、色々な形で関わりたいとか、福島と繋がりたいと思っている人達もいると思いますが、卒業生のネットワークの可視化や繋がりは、どのようになっているのでしょうか。

東原 ●一応、同窓会はありますが、もっと強化しないといけないと思っています。地域の企業への就職率が低いとか色々言われているので、そこはもう少しコミュニケーションが必要かなと思います。

矢吹 ●誰でも故郷への郷愁や想いがありますから、大学と地域と卒業生が何か一緒になって繋がっていくような取組みができないかと思っています。

東原 ●確かに、開学から30年経って、第一期卒業生が50歳ぐらいになって責任のある忙しい年代ですから、大学がきっかけを作らないと難しいでしょうね。

矢吹 ●何か世界と繋がりながら取り組んでいらっしゃることはありますか。

東原 ●新しい試みとして学部のスーパーグローバルプロジェクトで、学部から留学生を受け入れました。10人くらい受け入れたので、学部生も留学生と触れ合う機会が増えたと思います。あとは、先生方の4割が外国籍でそれぞれ地元や母国（研究教育機関）と繋がりがあって、外国との共同研究的なものが評価されているようです。

矢吹 ●4割いらっしゃる外国の先生方で、定住される方と何年か働いて母国へ戻られる方では、どちらが多いのですか。

東原 ●割合ずっと住み続ける方が多いです。市内一箕町松長の公舎に住んで、ザベリオ学園に入られるお子さんが多いです。ご家族も言語的な問題は全然なく、バイリンガルと言いますか、会津弁も理解されて、柔軟に適應されています。

矢吹 ●おいくつくらいでいらっしゃるのですか。

東原 ●30代から40代くらいです。

矢吹 ●連れ合いやお子さんが出て、住まいは勿論ですが、ちゃんと家庭教育ができる環境（学校）があって、（一番子供さんのことを気にされる訳で）これはエフレイさん（福島国際研究教育機構）がやろうとしていることでもあり、先駆的な事例ですね。

東原 ●たまたま開学当初は外国人の先生が多く、五割くらいいたと思いますよ。

矢吹 ●会津地方は、どちらかという外から入り込むのに苦労するような印象があるのですが、外国から入ってきた人達を30年前から寛容に受け入れてきたのですね。

東原 ●確かに、よくやってきたと思いますよ。

矢吹 ●地域の中で日本語がよくわからない方は、日本語を学ぶのでしょうか。

東原 ●多分学んでいると思います。基本は英語で話すのですが、外国人の先生方でも意外と日本語を理解されています。

矢吹 ●これからの世界で言うと、英語は外せないツールになってきましたね。



束原 ● そうですね、標準になる言語があれば、情報が伝えやすいですね。

矢吹 ● 通常の授業は英語で行われているのですか。

束原 ● 英語ですが、学部の場合、先生が日本人であれば日本語です。英語の授業は2年生から増えてきて3年生になると英語のレポート等を含め、だいぶ増えますね。

矢吹 ● スーパーグローバルの会議等をお聞きしていると、TOEICのスコアが結構上がってきていますね。それだけ慣れてきているということでしょうか。

束原 ● 語学は慣れですね。

矢吹 ● 我々は、負の福島原発事故を前向きに捉えようと、世界と繋がっていくことは凄く大事だと思うのですが、そういう意味で会津大学の取組みをお聞きしていると、英語に触れる機会を習慣化するというか、英語教育に力を入れる必要性を感じます。

束原 ● ミスを気にしないで、意志を伝えようということが大事のような感じがします。インド人の先生達は早口のよどみない英語で喋ってきますよ。

矢吹 ● 我々経済界から言えば、グローバル企業のトップがインド人という企業が、どんどん増えてきて、インドの教育の力が世界で認められていると感じています。特にICT系は多く、そういうところは感じられますか。

束原 ● そうですね、皆さんIIT（インド工科大学）というトップレベルの工科大学を出ていたりします。この間もIITカンパールにご所属の先生が来られた時、息子さんが本学の二年生なので、岩瀬副理事長が「なぜIITに行かなかったのですか」と質問したら、「レベルが高くてトップ数%でなければ入れない」という話で、相当競争が激しいようです。

矢吹 ● そう言えば、THE日本大学ランキングは24位ですね。

束原 ● 確か国内向けですね。これは日本用にアレンジしているもので、もう一つの（同じところでやっているのですが）世界大学ランキングでは、国内119大学中11位です。日本の方はどちらかというと教育を重点化している感じがします。世界の方は研究や産業界へのインパクトで、評価が高かったのはやっぱり国際性ということで、国際性の評価は国内で一番高かったです。意外と日本の大学だと、そこまで外国と共同研究は多くないと思いますね。

矢吹 ● こういうことを、もっと県民の皆様には伝えたいですね。

束原 ● そうですね。中身の分析や配点方法を説明しないと分からないですからね。世界大学ランキングではこういうファクターで研究の質や国際性や特許等が評価される訳です。

矢吹 ● 東京大学でも29位（最新ランキングでは28位、国内1位）ですね。グローバルに並べた時に、一番日本の大学が変えて行くべきことは、どういうことなのでしょうか。

東原 ● 国際的に知られた論文雑誌に出しているかどうか、世界的に色々な研究者から引用されているかどうか、外国との共同研究ですね。研究の質ということは、世界的に流通している論文をどれだけ出しているかによって、だいぶ違います。

矢吹 ● その辺り（大学ランキング）をグローバルに見て優秀な人材が、会津大学に行こうという選択をされる動きもあるのですか。

東原 ● おっしゃる通りです。だから、特に世界ランキングを見て、この分野だったらこれだという選択で、結構、問い合わせが増えているようです。IT分野だったら会津大学が上がって、上に見えるのではないのでしょうか。

Times Higher Education 世界大学ランキング

THE 世界大学ランキング 2025(2024.10.9 発表) : 601-800位/2092校

ランクインした日本の大学 抜粋

	2025 の順位	2024 の順位	大学名
1	28	29	東京大学
2	55	=55	京都大学
3	120	=130	東北大学
4	162	=175	大阪大学
5	195	=191	東京工業大学
6	201~250	201~250	名古屋大学
7	301~350	301~350	九州大学
8	351~400	351~400	北海道大学
8	351~400	351~400	筑波大学
10	401~500	401~500	東京医科歯科大学
11	601~800	601~800	広島大学
11	601~800	601~800	順天堂大学
11	601~800	601~800	慶應義塾大学
11	601~800	601~800	神戸大学
11	601~800	601~800	谷津大学
11	601~800	601~800	岡山大学
16	801~1000	801~1000	東京医科大学
16	801~1000	801~1000	和歌山県立医科大
16	801~1000	1001~1200	早稲田大学
16	801~1000	801~1000	千葉大学
21	1001~1200	1001~1200	藤田保健衛生大学
21	1001~1200	1001~1200	浜松医科大学
21	1001~1200	1001~1200	金沢大学
21	1001~1200	801~1000	熊本大学
21	1001~1200	801~1000	京都府立医科大学

1 © Copyright 会津大学

・国内119大学中11 ・公立大学1位

3. 地域振興・社会貢献について

矢吹 ● 地域への取組みについてお聞かせください。

東原 ● そうですね、アイクトさん（AiCT コンソーシアム）と会津若松市で、デジタル田園都市ということで、連携してやらせてもらっています。地域連携・貢献活動の拠点として、産学イノベーションセンター（UBIC）や復興創生支援センター（RACS）があって、これらが経済産業省の地域オープンイノベーションの拠点・地域貢献型として認定されて、ここを中心に活動しています。あとは、大学発ベンチャーやアイクトとの関係ですね。他に日常的で非常に特徴的なのが、会津オープンイノベーション会議（AOI 会議）です。2013年から始まって、年間300件以上の実績があります。ここは、地元を中心とした皆さんの色々な困りごと相談の場になっていて、ここから広がる可能性があるかなと感じています。ここでは、必ずしも研究成果をそのまま役立てるとは限らなくて、既にある企業に他の企業を結び付けたり、ニーズをベースにマッチングしています。

矢吹 ● 主催は会津大学で開催しているのですか。

束原 ● はい、本校 UBIC の職員と先生が担当しています。

矢吹 ● 県内どこでも（県外も含めて）、この窓口に対してコンタクトすれば、相談ができて、繋がりができるといことですね。

束原 ● おっしゃる通りです。これが一番、実質的な地域貢献の成果かもしれません。

矢吹 ● 皆さんと接点を持っている企業は多くないと思いますし、こういう形で接点を持てるということを知っている企業も多くないと思います。そういう状況で、継続して年間300件以上の相談があるということは、素晴らしいですね。

束原 ● 例えば、この会議で「こういう人材が欲しい」とか、そういうことも言っていただいて、学生にもっと詳しくアピールするようになれば、「地元だから就職しようかな」という声も上がるのではないかと思います。まだ今は企業の困りごと相談が中心ですが、そこから今後、学生の就職にも繋げていきたいですね。

矢吹 ● 実は、学生さんのガイダンスは1年生から始まっていて、3年生の頃には大体もうイメージができていますので、そこで開いても遅いという声もあります。早い段階でプレゼンする場を設けて、地元貢献したいという想いに応えるような仕組みを作りたいですね。会津大学は AOI 会議やアイクトさんと連携して、この地域で凄いい役割を担っていて、地域と大学が一緒になって持続可能な社会を作るために努力されています。一方で、人口減少が大きくなっていて、会津若松市でも消滅可能性自治体に入っています。消滅しないようにするためにはどうしたらいいかと考えると、大学と企業と行政が一体になって新たな産業を生み出していくことが一番大事なことでないでしょうか。

束原 ● そうですね。

矢吹 ● エフレイさんとの連携による採択事業もそうですが、会津大学発ベンチャー企業32社は、全国に展開しているのですか。

束原 ● 本社が東京にある企業もありますが、ほとんど会津若松市内の企業です。雇用は数百人産んでいて、公立大学では全国1位です。

矢吹 ● ベンチャー企業には、技術と情熱はありますが、管理系人材はなかなかいっしょらないので、これを地域で補うように考えなくてはいけないと思います。また、資金調達ですがクラウドファンディングも大事だと思いますが、どうしても一過性で続かない面もありますので、地域ファンドのようなものを組成して支援すべきだと思います。さらに企業と人的交流のパイプラインを作って、学生も含めて一緒に研究したりできないでしょうか。県立大学でもあり、何か大きな仕組みを作って、我々金融系がお役立ちできないだろうかと思っています。会津大学の次の展開は、研究自体が地域に直接何かもたらすだけでなく、社会実装される中で、雇用や人口増加等へ拡大するものであって、起業家を育てることは会津大学にとって大切なことじゃないかなと思いますね。

束原 ● 確かにそういう話があると違いますね。

矢吹 ● 以前、会津経済研究会の講演で、半導体製造のような大規模製造工場を会津に誘致すれば、会津大学の卒業生が地元に残り、地域が活性化すると提言されていますが、その辺りについて教えてください。

束原 ● 日本の半導体産業は今現在ちょっと弱くなっていますが、TSMC の熊本進出によって半導体の流れが変わってきています。昔は大手電機メーカーが設計から製造まで全部やっていましたが、そういうビジネスモデルから設計と製造が分かれる世界になりました。20年から30年くらいの間、ついて行けなくなって立ち遅れましたが、一方で TSMC は日本国内のエレクトロニクス産業や自動車産業へ半導体集積回路 (LSI) を供給するため進出する訳です。例えば、ソニーのイメージセンサーには TSMC のチップ (LSI) が使われているため、近場の九州で作ることで製造拠点を分散しています。まだ、日本はそういうエレクトロニクスでは力を持っていて、お客さんになりうる。今後、東北地方にファウンドリー等の勢いのある企業が来ると、そこでお客さんの設計データをもとに、自分達もトライアルでチップを作る必要があります。工場でも設計能力が必要になります。その他、オートメーション化なども含めて、本学の学生が得意な分野なのですが、学生が残ってくれないので、福島県から東京へ行った理工系の人間が戻ってくる受け皿になるかもしれません。少し刺激を与える意味で、半導体ファウンドリー工場の誘致が非常にいいかなと思います。

4. 将来構想について

矢吹 ● 将来構想についてお話しください。

束原 ● できるだけ、国内の知名度を上げたいと思います。世界大学ランキングの評価と比べて受験業界の偏差値や評価にギャップがあると感じています。県内高校向け入試相談会には私も積極的に出るようにしていますが、国内での評価をもう少し上げたいと思っています。研究環境も、例えば東京都市大学は、キャンパスが世田谷区にあるせいか、4年生は研究室に学生用の部屋が無いそうです。本学は、研究室に学生用の机と椅子があって寝泊りもできるので、それだけ見ても、ゆったりとして恵まれた研究室生活と言えます。



矢吹 ● こういうものも含めて、何か発信したいですね。

束原 ● 地元への発信になりますが、「会津産学懇話会」が開催する朝食勉強会に参加しています。そこでは講演会やベンチャー企業の社長さんを変えたパネルディスカッションを行っています。「会津産学懇話会」は、地元の方が中心になって、本学を盛り上げるため、本学と同時期に設立されました。

矢吹 ● そうすると去年30周年ですね。こういう組織を継続し発展させて、地域がもっと繋がり、発信することで存在感が高まるのではないのでしょうか。

5. メッセージ

矢吹 ● 最後に、福島の子供達へメッセージをお願いします。

束原 ● インタビューの教育理念のところ、本学はどういう学生が多いのかという質問に対して、ゲームやプログラミングが好きな学生が多いと答えましたが、やっぱりコンピュータやスマートフォンの中身や、チャット GPT や AI の中身に興味がある学生に来ていただきたいですね。そういう学生は、

その中身から新しいものを作る素質があると思います。あとは、女子学生に、ぜひ躊躇しないで応募していただきたい。同じ理工系でも体力を必要とする実験などはあまりないですし、IT分野は就職してから在宅勤務や遠隔で勤務できるような分野なので、女子に向いていると思います。

矢吹●最近NHKの朝ドラで法曹界の女性のお話が描かれていますが、ダイバーシティ・インクルージョンと言われていますが、女性の活躍は絶対的に必要ですね。

東原●そうですね、本学も毎年「女性のためのITキャリアアップ塾」(IT基礎・Webデザイン基礎コースとプログラマ基礎コース)を開講していますが、これも結構人気がある社会人向けのリスキングのための講座です。プログラミングからWebデザイン等を学び、毎年100名くらいの受講者がいます。他には専門家向けのセキュリティ関係の講座や普通の公開講座がありますが、女性向けの講座が増えると、お子さんの進学に対する見方も変わってくるでしょう。

矢吹●「女性のためのITキャリアアップ塾」は、県内どこに住んでいても、オンラインで自学自習できて、受講料も2万円～4万円ですね。

東原●はい、だからこそ、2017年から始まってこれだけ長く続いてきたのだと思います。この講座に限らず、地域貢献や産学連携によって総合的な役割を果たせるように取組みたいと思います。

矢吹●ぜひ、期待しています。今日は長時間のインタビューにお付き合いいただきまして、ありがとうございました。

女性のためのITキャリアアップ塾

(女性IT人材育成・就業応援事業)

第25回工学教育賞受賞
2021年3月(日本工学教育協会)



女性のためのITキャリアアップ塾
オンライン講座
2024年8月開講



女性プログラマ育成塾

2018 1期生	104名受講	56名就労
2019 2期生	102名受講	57名就労
2019 3期生	105名受講	51名就労

女性のためのITキャリアアップ塾

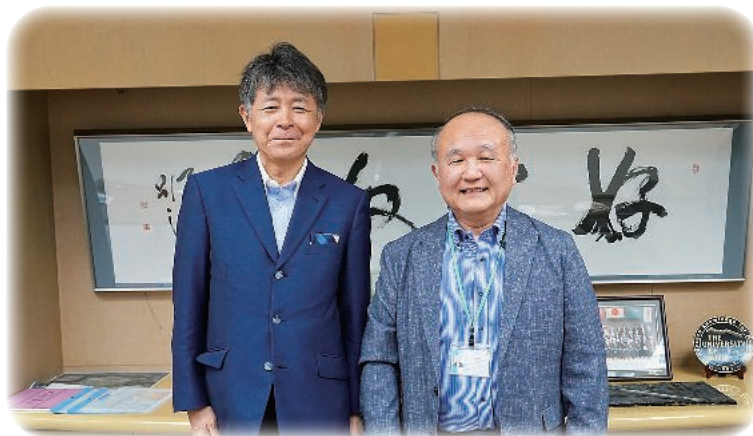
2020 1期生	90名受講	56名就労
2021 2期生	92名受講	68名就労
2022 3期生	90名受講	62名就労
2023 4期生	110名受講	69名就労
2024 5期生	93名(応募101名)	8月入塾

特色

1. 未就労、子育て中、ひとり親家族、離職者、転職希望などの初心者も対象
Female - child care, not working, job hunting etc
2. 家でいつでも学べるeラーニング
E-learning base
3. 就労は県内企業 *Employed by a company in Fukushima prefecture*

- IT基礎知識を持つ人材の輩出
- 女性IT人材
- 目標(KPI) 6割の就労を目指す

2 © Copyright 会津大学



公立大学法人会津大学 東原理事長兼学長(右)
当研究所 矢吹理事長(左)

● トップインタビューを終えて ●

会津大学の東原理事長・学長と面談して、改めて「会津人」としての魂と大学・学生に対する深い愛情を感じた。私自身は、ご縁をいただき2022年度から、同大学の経営審議会委員を務めている。長い伝統と歴史を有する会津に在って、同大学は、1993年に開学した日本で最初のコンピュータ理工学専門の大学である。建学から31年、コンピュータサイエンス分野に有為な人材を数多輩出してきたことに対し、深い感謝の念を抱くとともに、「会津大学は県民にとって大きな希望である」と考える。



理事長にインタビューして、一番印象に残ったことは、若き日の物理学者を志すころのお話である。会津若松の一人の少年がアマチュア無線に夢中になり、湯川秀樹さんのお話を聞いて物理を志し、研究者、大学教授、そして理事長・学長になられた。アマチュア無線のお話をされている時のお顔は、溢れるばかりの笑顔で、少年のようにキラキラと輝き、澄んだ目をされていた。知的好奇心とあくなき探究心、研究心が、理事長を支えてこられたのであろう。

実直で誠実かつ我慢強い会津の人柄、真冬の風雪の厳しさが学生を成長させているのではないだろうか。会津の地で建学され、多くの関係者の想いや願いが、今日の会津大学を創り出している。まさに、地域の悲願が現実のものとなっている。

インタビューを終えて、会津大学の学食でスタッフと食事をさせて頂いた。東原理事長もたまたまランチにみえられ、学生と楽しそうに食事をしておられた。学生達に寄り添う姿が垣間見え、とても嬉しい気持ちになった。学生の方々は、今と未来を紡ぐ触媒である。一人ひとりに寄り添い、伴走し、ともにこの国の未来を創造してゆかねばならない。我々は、これからの将来を憂うのではなく、子供達という種を、苗をこの地に植え、しっかりと肥料や水をやり、ともに福島を育てていく責務がある。地域の少年、少女の澄んだ目が、決して曇ることの無いように尽力していかなければならない。そういう意味からも、今、目の前に見える景色より、これから5年後、10年後に起こるであろう景色をしっかりと見据えて戦略・戦術を考えていかなければならない。デジタル化が進めば、進むほど本当の人のぬくもりや、心の豊かさが重視されるようになるのではないだろうか。これからの社会というのは、経済的発展ももちろん大事であるが、ノウハウや繋がり、人脈など、バランスシート等に現れてこない無形・非財務資産をいかに見える化し、極大化していくかが大切だと考える。デジタルが描く未来が、人々にとってますます優しいものになることを心から願っている。福島の真の復興のためにも地域の子供達の未来をともに支えてまいりたい。

(インタビュー 矢吹光一)

女性 経営者 に聞く!

どうせ
やるなら、
笑顔で



須賀川瓦斯株式会社
代表取締役社長
橋本直子



SUKAGAWA GAS

須賀川瓦斯株式会社

1. 創業70年を迎えて

私の祖父・橋本淳が創業してから、今年で70年を迎えます。当社は「地域社会への奉仕」を社是に、ガス、石油、そして電気という3つのエネルギーを柱に、福島県内23の拠点で東北や関東に対応エリアを拡大中です。エネルギー以外にも、車検や保険、太陽光に蓄電池、酒スーパーやフィットネスなど、日々の生活に必要な様々なサービスも提供しています。「生活に欠かせないインフラを通じて地域を支える。困ったときに頼りになる親切なガス屋さんでありたい」創業から今も、そしてこれからも、私達の使命は変わりません。

小さい頃は、家の前にガソリンスタンドがあったので、重い鉄の扉を開けて裏口から入り、スタッフに遊んでもらったり、事務所で絵かきをしたりしました。祖父は、当社の前身である上野石材で地元の石を切り出し、インフラ事業の需要拡大を背景に、阿武隈川を利用して建築用材として東京へ卸していました。終戦後、福島に戻ってきてこれから到来するエネルギー需要の拡大を見据えて、プロパンガス販売を始め、その後すぐガソリンスタンド第一号店を開所しました。自社の歴史を振り返ると、エネルギーを主軸として、実に様々な事業を始めては終わらせ「スクラップアンドビルド」を繰り返しており、その事業領域は宝石販売、ファンシーショップやホットスパー、薬局や配置薬など、多岐にわたります。そんな企業風土をもつ当社は、2011年の震災をきっかけに、電力事業に参入しました。今でこそ太陽光は一般家庭にも普及が大分進みましたが、当時は買取価格も決定しておらず、設備も高額で、事業が成

り立つのかも明確ではありませんでした。このよう状況でも、先代の社長がこれからを見据え「10MWの太陽光発電所を設置する」とアドバルーンを上げ、太陽光発電事業にいち早く乗り出しました。震災の翌年2012年1月、須賀川ガスの第一号太陽光発電所が完成、数年後には自社でメガソーラーを設置するまでになりました。



2012年1月 須賀川ガスの第一号太陽光発電所の完成。先代社長と一緒に

今では社内に電験三種や電気工事士などの有資格者が増え、設計から施工、管理までを内製化し、県内の太陽光発電所112か所・15MWを稼働させています。太陽光発電事業を立ち上げた数年後、電力自由化という大きな規制緩和を受け、自社の発電所で作った電気、電力小売を開始しました。当初は9件のお客様しかいない小さな電力会社でしたが、現在までに1万4,000件のお客様に「須賀川ガスのでんき」をお届けしています。最近是企业の環境への配慮した取り組みが重要視されており、各社対応を模索する中、SDGsのイベント等を通じて、自社の太陽光発電所から届ける「再生可能エネルギー100%の電気」や「CO₂フリーの電気」を提案し、お客様のニーズへ対応しています。



2024年3月 SDGs 未来博で再エネプランとCO₂フリープランの提案

2. 多様性より柔軟性

2011年の東日本大震災を機に福島に戻り、エネルギー業界に飛び込んで最初に感じたことは男性が多いということです。業界の会合に出席すると、黒いスーツを着た50代・60代の男性がほとんどで、30代の女性である私は珍しい存在でした。イギリスの大学院を出た後、人種のるつぼ・ロンドンで働いていた時は、ヨーロッパ、アフリカ、中東、アメリカ、インド、中国など様々な国籍やバックグラウンドの人々がいました。上司はゲイで、同僚はユダヤ教だったり、黒人とのハーフだったり、文化、習慣、宗教、性別、教育、経験など、一人ひとり違う事があたりまえの多様化した環境の中で、私自身女性であることをさほど意識せず仕事をしていました。日本の特に地方では、日本人だけという事もあり「男か女か」に焦点が当たりがちです。事業を継続させるためには、性別に限らず、外国人、障害者や高齢者、複業/業務委託/派遣、中途や新卒、海外フルリモートや時短、服装から髪の色に至るまで、個々の価値観や働き方を尊重していく姿勢や柔軟性が求められていると思います。



2024年3月リクルート用ホームページ刷新。より働きやすい環境を目指して

3. 私の事件簿

会社の代表に就任してから早6年、実に様々な事がありました。まず就任後すぐの2019年に台風19号が福島県を直撃、県内23か所ある事業所のうち、本社と車検センター、フィットネスジム店舗、そしてガソリンスタンドの計4拠点が被災し、自社の復旧と被災されたお客様の対応に追われました。翌年には新型コロナウイルス感染症の拡大により、他の業界同様、エネルギー業界も大きな打撃を受けたのはまだ記憶に新しいと思います。さらに次の年は電力の市場が高騰し、創業以来最大の損失を計上しました。一息つく間もなく同年、ランサムウェアによるサイバー攻撃を受け、システム障害が発生したことで1万件以上ある月々の請求書が発行できず、復旧に数か月を要しました。最近では2023年にはロシアのウクライナ侵攻により燃料が高騰し、ガスやガソリン、電気の値上げが続きました。



2019年10月 本社屋上から撮影、台風19号による被害

実は父が亡くなる前に、「こう言った時はどうするの?」と質問しまくって、まとめたノートがありましたが、いざ代表になってみると、想定していない事ばかりが起きました。誰も答えを出してはくれません。自分で考えて決断するしかないのです。代表という立場になって改めて、事業を継続させる責任と難しさを感じました。この6年間、日々の小さな出来事から大きな事件まで、どのように対応したか、結果どうなったかを記録しています。事件が起きる度に、その時できる最善の選択をしてきたわけですが、改善の機会が与えられた結果、会社が成長してきたことを思えば、起きるすべての事は悲観すべきものでもありません。「地域を支えるインフラ企業として、全社員の幸福の実現と、地域社会の発展に寄与する」という経営理念を掲げ、毎年社員一人一人と個人面談をしています。小さなつぶやきのようなものもメモをとるように心がけ、より良い環境や成長につなげています。



4. 事業承継

個人的な話をすると、36歳の時会社の代表になり、37歳で結婚し、38歳で妊娠、39歳で出産しました。コロナ禍でなかなか結婚報告ができないまま、子供が生まれ、機会をみつけて関係各位に報告しました。男の子だという事と伝えると「跡取りができてよかったね」「これで安泰だ」とよく言われました。女性の社会進出が謳われて久しいですが、女性が会社を継いでいくケースはまだまだ少数です。でも父と息子の経営方針の違いで事業承継がうまくいかず、息子が退社または独立してしまったという話を耳にしても、私の知る限り、父と娘で事業承継をしたケースでそういう話は少ないように思います。私自身も父と仲が良く、夕食の時には経済ニュースや気になった出来事を題材に、よく議論を交わしました。意見が違って、父の意見に納得して、衝突する事はありませんでした。

地方の中小企業にとって、激変する環境に対応しながら利益を上げ、事業を存続させ、それを次へ繋ぐというのは至難の業です。人口減少によってますます需要が減り、人手が不足していく事は明らかで、

子供に自分の会社を継いでほしいと思う反面、会社の規模や業種によっては、自由に好きな事をやらせたいという経営者も少なくありません。また親の気持ちに関わらず、子供自身が結婚しない／子供を産まないという選択をする場合もあります。中小企業のほとんどは、一族の存続と会社の継承は表裏一体であり、会社の存在意義やなぜ継承するのかを問い、親族への継承やM&Aによる売却、上場といった選択肢の中から、最適な答えを模索していかなくてはなりません。



5. 福島で、これからも

私の周りの女性経営者を見ていると、夫や父親が急逝したり、親の病気を理由に地元に戻って会社を継ぐという選択をしたり、なんらかの状況に直面し、事業を継ぐ決断をした方がほとんどで、自ら進んで社長になったわけではない場合が多いように思います。私も東日本大震災という大きな出来事がきっかけで福島に帰ってきた一人です。大変な事に直面すると、幼少期の数少ない記憶を思い出します。幼稚園に通っていたときのこと、家に帰ってきて脱いだ制服を片づけるのが嫌で、「お母さん、やって」と頼んだら、母は「自分でやりなさい」と片づけてくれませんでした。しぶしぶ自分で制服をハンガーにかけ、不満そうな態度をとっていたら、母は「どうせやるなら笑顔でやりなさい」と言いました。その言葉は心に残っていて、今でも私が大切にしている考え方の一つです。

創業100年に向けて、これからも笑顔で前に進んでいきたいと思います。



これからも、地域とともに。地域のために。

寄稿

ふくしまの
ミュージアム
②

いわき市立美術館

いわき市立美術館は、
戦後美術やいわきの美術を収集・公開し、
多彩な展覧会や普及事業を開催しながら、
市内外の方に美術の魅力を知ってもらえるよう
活動を続けています。

〒970-8026
福島県いわき市平字堂根町 4-4
Tel. 0246-25-1111
Fax. 0246-25-1115



ヘンリー・ムーア《横たわる人体・手》
1979年

いわき市立美術館

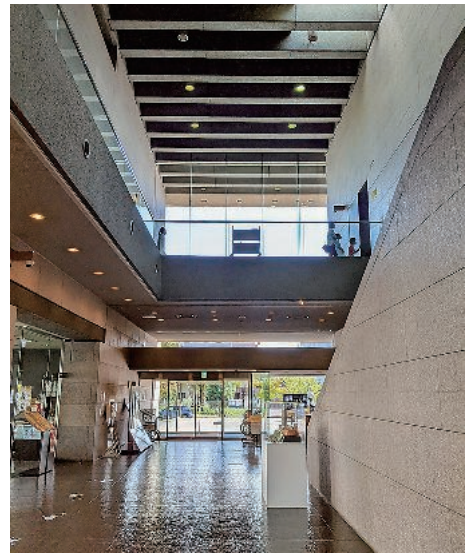
いわき市立美術館は1984（昭和59）年、JRいわき駅（旧・平駅）から徒歩12分ほどにある平地区の市街地に開館し、今年で開館40周年を迎えました。美術館の近隣にはいわき市役所、いわき市文化センター、平中央公園、いわき芸術文化交流館アリオスなどがあり、行政・文化の中心地として多くの人が行き交います。

当館開館の背景には市民が1976年に結成した美術振興団体「いわき市民ギャラリー」の活動があります。彼らはまだ美術館がなかった当時、文化センターなどを利用しながら実技講座や講演会、展覧会を実施し、特に彼らが企画の中心となって開催した「ヘンリー・ムーア展」、「ロダン展」は盛況を収め、市民の美術に対する関心を高めました。彼らはこうした活動を経て市立美術館設立の要望を出し、これを受けた市は1979（昭和54）年より美術館建設に向けて動き始めます。そして1984（昭和59）年、市民の声を受け、市民と行政が協働するという当時としては例を見ない形でいわき市立美術館は開館しました。

当館の設計は佐藤武夫設計事務所が手掛け、外壁・内装にあしらわれた赤褐色の花崗岩が特徴的です。正面玄関には開館当時から三回りほど成長したクスノキの大木、そしてヘンリー・ムーアのブロンズ彫刻《横たわる人体・手》（1979年）があり、美術館の顔となっています。また、北口側には三澤憲司の彫刻庭《いわき宣言》（1982-84年）が広がり、歩道や館内ロビーから鑑賞することができます。



三澤憲司《いわき宣言》1982-84年



1階エントランスホール



伊藤公象《起土》1984年

正面玄関を入ると3層吹き抜けの開放的なエントランスホールが設けられています。1階には常設展示室があり、年4回展示替えを行いながら収蔵品を紹介しています。また、美術館レストラン「あじさい」や、靴を脱いでくつろいだり子供と絵本を読んだりできる「ギャラリー広場」、ガラス越しに伊藤公象の立体作品《起土》（1984年）を臨むロビーがあり、来場者の憩いの場となっています。

2階には二つの企画展示室があり、年4回の有料企画展と地元小・中学生による「いわき市小・中学生版画展」、公募展「いわき市民美術展覧会」を毎年開催しています。特に「企画展示室2」は天井高が約5mと高く、大型作品の展示や空間を縦に使ったレイアウトができる点も当館の魅力です。



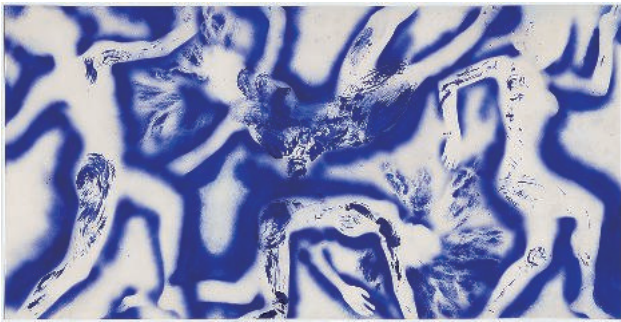
カーボン紙版画体験 (2階ロビー)

3階には図書室があり、現代美術を中心とした6,000冊以上の蔵書を自由にご覧いただけます。また、3階のセミナー室・実技講習室は当館主催のさまざまな普及事業に利用されています。

当館は開館以前の「美術館準備室」時代(1980年)から作品の収集を続け、コレクションは現在で2,400点以上に上ります。収蔵方針として「いわきゆかりの美術と戦後の現代美術」を柱とし、いわき、日本、海外における優れた戦後美術のコレクションを築いています。

◇戦後の現代美術

当館は戦後の現代美術に焦点を合わせて収集を行ってきました。そのなかでも核となっているのが「大光コレクション」を由来とする作品たちです。「大光コレクション」とは新潟県長岡市に本社を置く大光相互銀行(現・大光銀行)の経営者家族によって収集された作品を中心とする戦後美術作品のコレクションであり、1979(昭和54)年、同社が経営していた長岡現代美術館が閉館となって、コレクションの一部が全国の美術館等に売却されることとなりました。その際、画廊を通じて当館準備室にもその話が持ち込まれ、アンディー・ウォーホル、ロイ・リキテンスタインらポップ・アーティストの作品や、フランク・ステラ、ヘレン・フランケンサラーらアメリカを代表する抽象画家の作品を購入するに至り、当館のコレクションの方向性を定める重要なものとなりました。こうした作品に加え国際的に高い評価を得ていたイヴ・クラインの作品や、モーリス・ルイスによる戦後アメリカ絵画の傑作、高松次郎や河川龍夫など日本を代表する現代美術家の作品を



イヴ・クライン《人体測定 ANT66》1960年



モーリス・ルイス《Gamma Beta》1960年



若松光一郎《ズリ山雪景》1956年

収集し、国内外の戦後美術を展望できるようなコレクションを築いています。

◇いわきゆかりの美術

いわき市はかつては炭鉱業、現在は水産業や工業が盛んで、人の往来が活発なこともあり、独自のアート・シーンが醸成されていきました。特に旧制磐城中学校で結成された絵画サークル「X会」出身の若松光一郎、鈴木新夫といった作家たちは東京の美術学校に学び、新制作協会などの美術団体に所属しながら市内外で活躍しました。また、市内各地にあった炭鉱は多くの作家たちの関心を集め、佐藤忠良や中谷泰ら市外の作家たちもスケッチ旅行に訪れてズリ山や炭鉱街、そこで生きる人々を作品に残しています。そして岩手出身の松田松雄、京都の陶芸家団体「走泥社」に所属していた緑川宏樹のような市外から移住してきた作家たちも、地元美術界に新しい視点をもたらしながら「市民ギャラリー」の中心メンバーとして活動しました。当館はこうしたいわきにまつわる作品も数多く収集し、現在ではいわきの美術史を

物語る重要なコレクションを形成しています。

当館は普及事業も積極的に行っています。専門家を招いての講演会、実技講座やワークショップ、映画鑑賞会やコンサート & パフォーマンス、作家自身による公開制作など、展覧会ごとに特色のあるイベントを開催しています。また、定期開催している学芸員による常設展ギャラリートークや、友の会との共催で通年で実施しているデッサン教室、美術館で行う夏休みの自由研究や市内教職員を対象とした講座など、年間を通しさまざまな形で美術と触れ合える機会を提供できるよう努めています。

市民の声を受けて誕生した当館は、多くの方たちに支えられながらいわきの芸術文化創造の拠点となるべく活動し、40周年を迎えることができました。これからも展示や普及活動をとおして市内外の方たちに美術の魅力を知ってもらい、皆さまの日々を豊かにする一助となれるよう活動を続けてまいります。

展覧会 情報

○牛腸茂雄 写真展 “生きている” ということの証

会 期 2024年11月2日（土）－ 12月15日（日）
開館時間 9:30－17:00（16:30最終入場）
休 館 日 月曜日、11月5日（火）（11月4日（月・祝）は開館）
会 場 いわき市立美術館 企画展示室
主 催 いわき市立美術館
出品協力 東京都写真美術館
企画協力 株式会社コンタクト
協 力 三浦和人、赤々舎
観 覧 料 一般800（640）円／高・高専・大生300（240）円／小・中生200（160）円
＊カック内は20名以上の団体割引料金

○ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美

会 期 2024年11月2日（土）－ 12月15日（日）
開館時間 9:30－17:00
休 館 日 月曜日、11月5日（火）（11月4日（月・祝）は開館）
会 場 いわき市立美術館 1階ロビー
主 催 いわき市立美術館
助 成 公益財団法人朝日新聞文化財団
公益財団法人野村財団 **NOMURA 野村財団**
観 覧 料 無料

調査レポート

福島イノベーション・コースト構想への支援機関の関わり ～福島イノベーション・コースト構想の現状と支援機関の在り方について～

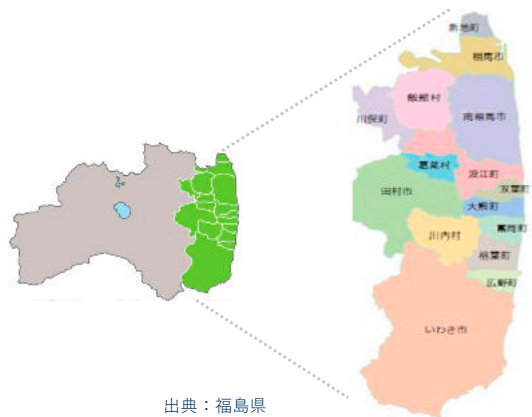
<要 旨>

1. 福島イノベーション・コースト構想が始動して今年で10年。この地に集結した企業が、それぞれのフィールドで「独創」性のある先端技術や商品開発を実現させました。
2. 今後、多くの企業が事業化や実用化の段階に入ります。関係者を巻き込みながら、その歩みを加速させていく「共創」のフェーズ。支援機関は、どのようにコミットすべきなのか、考察します。

1. 福島国際産業都市区域

福島国際産業都市区域（以下、「イノベ区域」という。）とは、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示対象となった12市町村に3市町を加えた15市町村となっています。

福島国際産業都市区域
(イノベ区域15市町村)



No	イノベ地域 15市町村	12市町村
1	田村市	田村市
2	南相馬市	南相馬市
3	川俣町	川俣町
4	広野町	広野町
5	楡葉町	楡葉町
6	富岡町	富岡町
7	川内村	川内村
8	大熊町	大熊町
9	双葉町	双葉町
10	浪江町	浪江町
11	葛尾村	葛尾村
12	飯館村	飯館村
13	いわき市	-
14	相馬市	-
15	新地町	-

※12市町村とは、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示対象となった市町村

避難指示区域の解除

解除年月	解除対象市町村
2014年4月	田村市
2014年10月	川内村（旧避難指示解除準備区域）
2015年9月	楡葉町
2016年6月	葛尾村、川内村
2016年7月	南相馬市
2017年3月	飯館村、川俣町、浪江町
2017年4月	富岡町
2019年4月	大熊町
2020年3月	双葉町（旧避難指示解除準備区域）
	双葉町、大熊町、富岡町の帰還困難区域の一部解除
2022年6月	大熊町、葛尾村の帰還困難区域の一部解除
2022年8月	双葉町の帰還困難区域の一部解除

2. 福島イノベーション・コースト構想

(1) 福島イノベーション・コースト構想とは

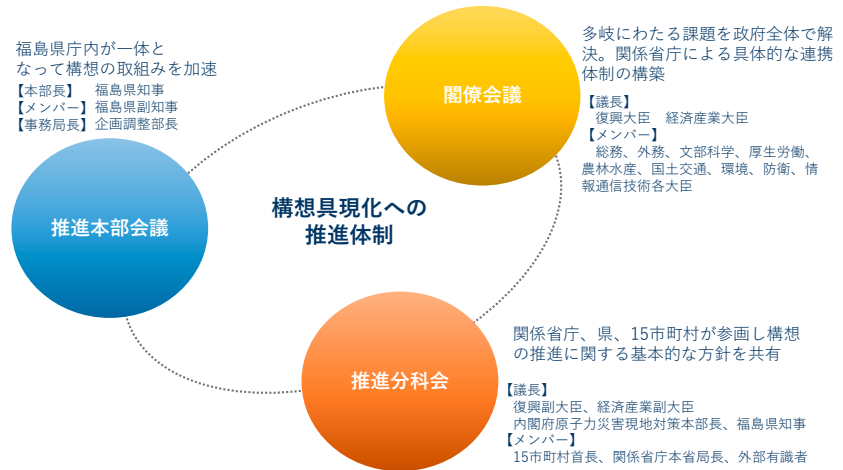
福島イノベーション・コースト構想（以下、「イノベ構想」という。）とは、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。「閣僚会議」「推進分科会」「推進本部会議」が有機的に連携・機能することでイノベ構想の実現に向けた取組みを加速させ、また、着実なものとしています。

これまでの経緯

- 2014年1月 ▶ 福島・国際研究産業都市構想研究会設置
- 2014年12月 ▶ イノベーション・コースト構想推進会議設置
- 2017年5月 ▶ 福島復興再生特別措置法改正法の成立
※福島イノベーション・コースト構想及び分科会を法的に位置づけ
- 2017年7月 ▶ 福島イノベーション・コースト関係閣僚会議の設置
福島イノベーション・コースト構想推進機構設立
- 2017年11月 ▶ 福島イノベーション・コースト構想推進分科会【第1回】
- 2018年12月 ▶ 福島イノベーション・コースト構想推進分科会【第2回】
- 2019年11月 ▶ 福島イノベーション・コースト構想推進分科会【第3回】
- 2019年12月 ▶ 「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」を取りまとめ
(復興庁・経産省・福島県)
- 2023年5月 ▶ 福島国際研究教育機構設立
- 2023年11月 ▶ 福島イノベーション・コースト構想推進分科会【第4回】

福島イノベーション・コースト構想

東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト



(2) 重点分野と実現に向けた取組み

「廃炉」「ロボット・ドローン」「エネルギー・環境・リサイクル」「農林水産業」「医療関係」「航空宇宙」の6つの重点分野におけるプロジェクトを展開しています。この重点分野の継続的な成果が5つの「実現に向けた取組み（産業集積、教育・人材育成、交流人口の拡大、情報発信、生活環境の整備）」を推し進めることとなります。

		実現に向けた取組み				
		産業集積	教育 人材育成	交流人口 の拡大	情報発信	生活環境 の整備
重点 分野	廃炉	国内外の英知を結集した技術開発				
	ロボット・ドローン	福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業を集積				
	エネルギー・環境・リサイクル	先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立				
	農林水産業	ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生				
	医療関連	技術開発支援を通じ企業の販路開拓				
	航空宇宙	次世代航空モビリティの開発や関連企業の競争力強化				
		企業誘致と地域内外企業のマッチングを推進	浜通り地域の未来を担う若い力を育てる	構想に共感する人々の輪を広げる	震災と災害の教訓を将来へ引き継ぐ	安心な暮らしに必要な環境の整備

3. 福島国際研究教育機構（F-REI）の設立

2023年（令和5年）4月1日に設立された福島国際研究教育機構（F-REI）は、福島をはじめ、東北の復興を実現するとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化のための「創造的復興の中核拠点」を目指すものです。

【Mission】

- ・我が国の技術力・産業競争力の強化を牽引
- ・経済成長や国民生活向上に貢献
- ・「創造的復興の中核拠点」



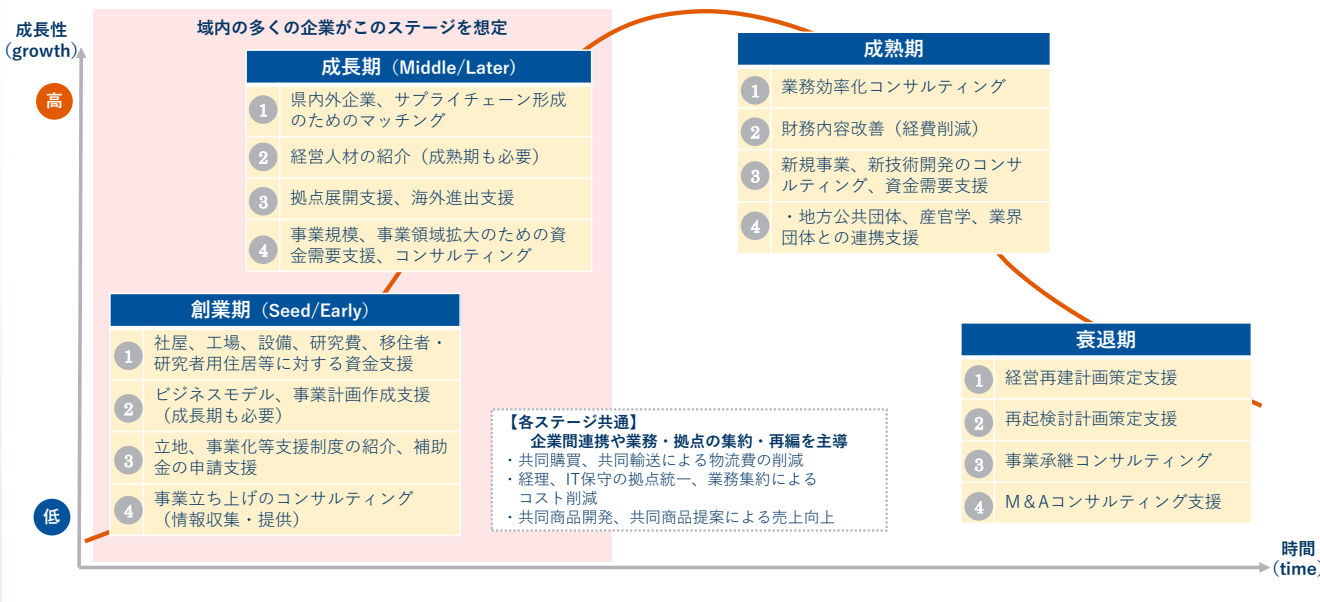
※研究開発5分野

1	ロボット	廃炉作業の着実な推進を支え、災害現場等の過酷な環境下の作業や人手不足を補完するロボットの研究開発
2	農林水産業	スマート農業やカーボンニュートラル等を通じた地域循環型経済モデルを構築し持続性の高い農林水産業の実現に向けた実証研究
3	エネルギー	水素エネルギーネットワークの構築やネガティブエミッション技術の研究開発
4	放射線科学・創薬医療・放射線の産業利用	放射線科学に関する基礎基盤研究や放射線治療、超大型X線CT装置等の技術開発による放射線の産業利用の実現
5	原子力災害に関するデータや知見の集積・発信	原子力災害からの環境回復、風評払拭、また、復興まちづくりの効果検証研究を実施し活力ある地域づくりへの貢献

4. ライフステージにおける支援機関の役割

イノベ区域内には、これまでに400以上の企業が立地し、4,000人を超える雇用が創出されました。地元企業の創意工夫による新たな事業展開や域外の企業による新たな知見と活力が流入し、新たなイノベーション、まちづくりが創造されています。

このイノベ区域内における多くの企業は、「創業期」「成長期」にあることから、支援機関はこのステージに合わせた支援を行う必要があります。



5. 企業の課題

イノベ区域内の企業の多くは、独創性のある研究や秀でた技術力によって、課題にアプローチし、研究者や技術者はしのぎを削りながら、これを克服してきました。企業の次なる課題は、これまでの「研究開発・技術開発」から「事業化」のフェーズに移行してきています。支援機関では、今後この分野でのサポートが重要性を増していくものと思われます。

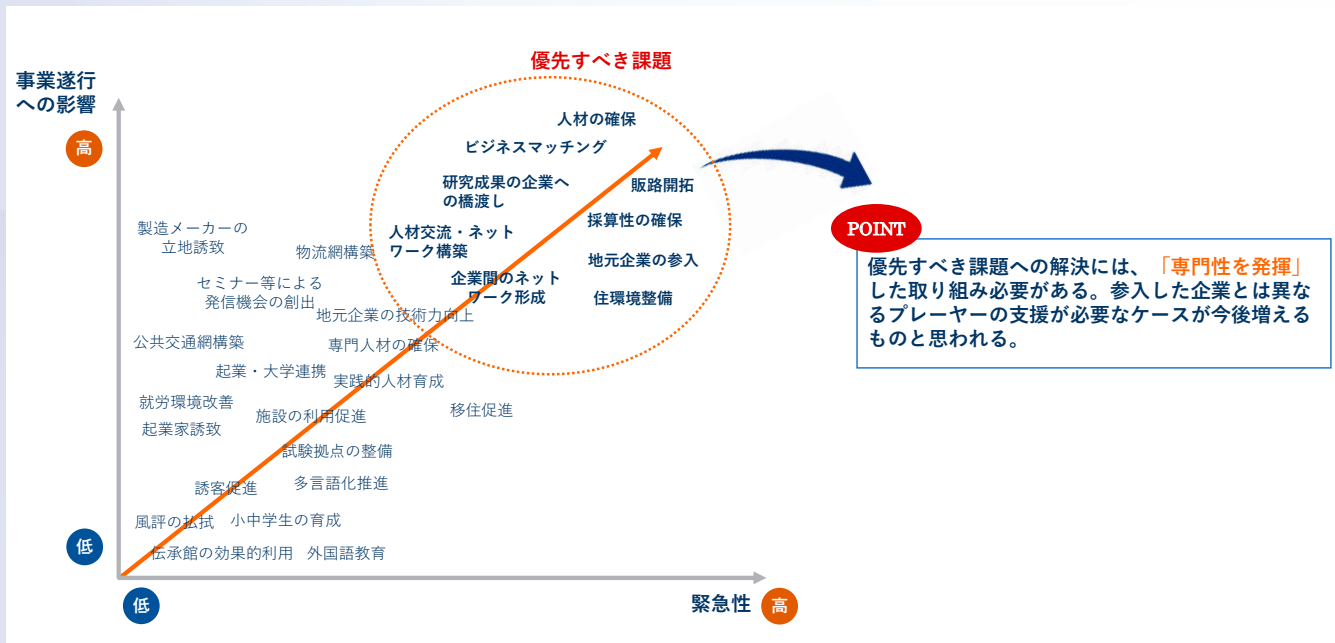
field/phase	研究開発・技術開発	事業化	製造	販売・品質管理
重点分野	廃炉			
	ロボット ドローン			
	エネルギー・環境・リサイクル			
	農林水産業			
	医療関連			
	航空宇宙			

イノベ区域内の企業の課題が「研究開発」から「事業化」フェーズへ移行

- ・ 専門人材の育成・確保
- ・ 企業間ネットワークの形成
- ・ 新規参入企業（メーカー、商社）の立地・誘致
- ・ 物流環境の整備
- ・ 販路開拓
- ・ 取引拡大
- ・ 就労環境の改善
- ・ ビジネスマッチング、人材交流機会の拡大

6. 優先すべき課題の解決

「事業遂行への影響」と「緊急性」の高い課題を優先すべきとして位置づけました。これら優先すべき課題の解決には、支援者それぞれがその専門性を発揮する必要があります。参入した企業とは異なる専門性を持ったプレイヤーがその存在感を増していくものと思われます。



7. イノベ区域内の企業の特徴とサポートの視点・支援メニュー

イノベ区域内の企業の特徴を捉え、サポートの視点を踏まえたうえで、それぞれに対応した支援メニューを実行することが必要となります。

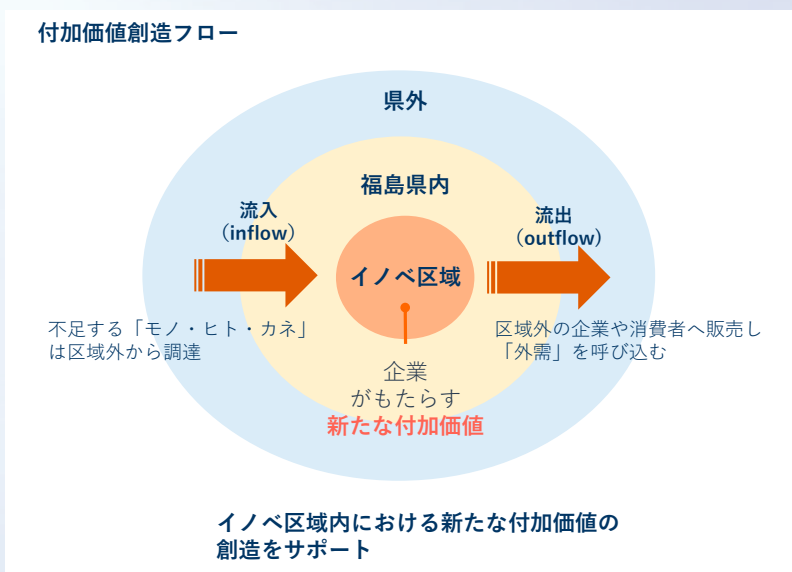
	イノベ区域内の企業の特徴	サポートの視点	支援メニュー
1	人的リソースに制限	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント体制の確認 ・重要な人材の離職リスク ・適切な人材の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・社内体制整備 ・研修体系整備 ・人事制度構築 ・各種規程策定
2	事業展開にスピード感はあるが不確定要素が存在	<ul style="list-style-type: none"> ・外部環境（規制や市場動向）の変化が事業へもたらす影響 ・ノウハウ技術、知財の流出リスク 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部環境の見通し ・財務状況、取引状況検証
3	事業化、販路開拓に不安	<ul style="list-style-type: none"> ・協業等可能性模索（事務、物流等、マーケティング等） ・業績見立て、採算性見込み等診断 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマッチング ・マーケティング戦略 ・ブランド戦略
4	事業の継続期間が短期的で安定的な財務状況の維持困難	<ul style="list-style-type: none"> ・自己資金の確保、借入先の確保 ・財務状況の安全性の確認 ・資金提供、出資可能性の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務改善支援 ・収益確保、コストダウン戦略 ・業務効率化
5	補助金等資金支援による事業遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・補助要件への合致、進捗状況確認 ・域外への撤退リスク ・（補助事業後の）資金提供、出資可能性の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種補助金等紹介 ・補助金申請 ・事業計画策定

まとめ

イノベ区域内の企業は、社会課題に対するソリューションの提供や雇用創出機能を通じ、イノベーションを加速させ経済成長のドライバーとしての役割が期待されています。

支援機関は、経営者や起業家の想いを尊重しながら、既存概念とらわれないサポートや解決策を提案し、新たな付加価値の創造を支えることが必要となります。

企業や行政機関、研究機関（大学を含む）、金融機関等のプレーヤーを巻き込みながら、企業と企業、人と人とを繋ぐ。支援機関は、こうした多層的なネットワーク形成し、区域内の企業が切磋琢磨できる「共創」環境を作り出すことができるのではないかと考えます。イノベ区域内の企業が業種や業態の垣根を超えて、その英知を結集し、共存そして共栄する。企業が紡ぐ産業生態系（エコシステム）が、イノベーション・コースト構想さらに推し進め、より確かなものにするものと考えます。



(担当：主任研究員 齋藤 哲)



「はじめる」から「かなえる」へ。福島県では、震災から10年を機に「ふくしまからはじめよう」からのバトンを渡す、スローガン「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」を策定しました。復興に向けて歩んできた「これまで」と、新しい未来に繋げていく「これから」と、県民のみなさんひとりひとりの「今」を重ねたメッセージです。

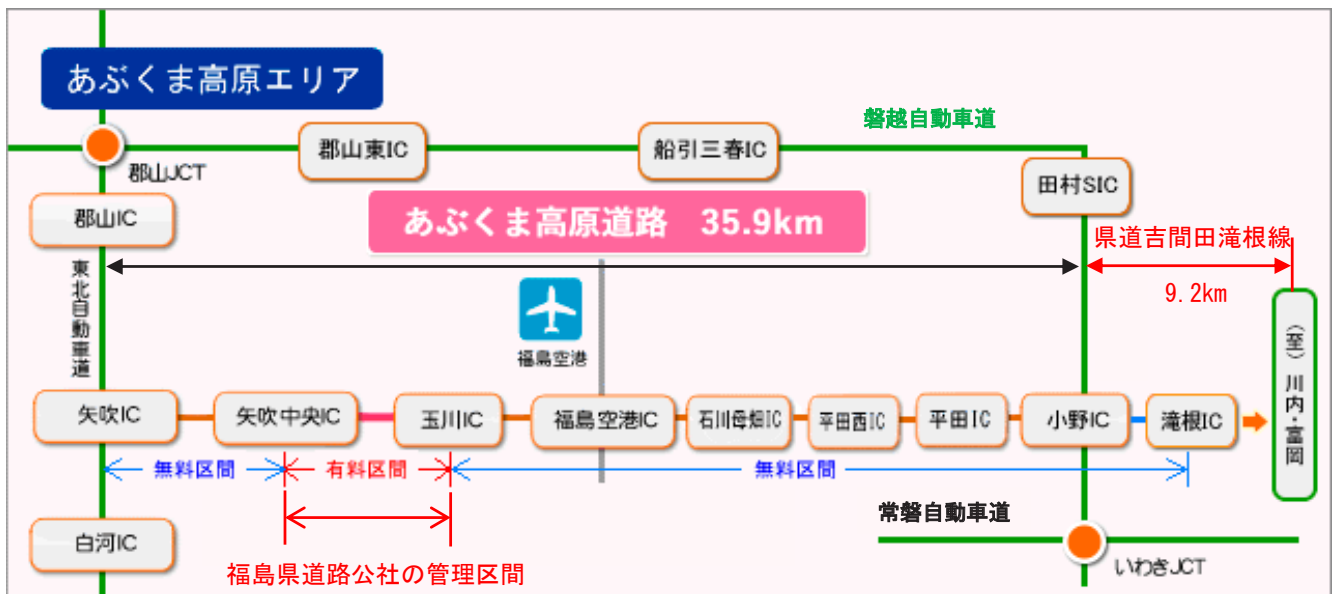
県南・相双地域間のアクセスが向上しました

福島県道路公社

県では、福島復興計画において、避難指示解除区域等と周辺の主要都市を結ぶ国道や県道など8つの主要な路線を「ふくしま復興再生道路」と位置づけ、整備を進めています。このうち「県道吉間田滝根線（広瀬工区）」として令和6年4月に、あぶくま高原道路の小野 IC から県道小野富岡線までの9.2kmの区間が開通しました。

この開通により、あぶくま高原道路を利用することで中通り中部・南部地域と相双地域のアクセスが向上し、さらに便利になりました。

ホームページで詳しい情報を公開しています。 [福島県道路公社](#) [検索](#)



あぶくま高原道路とは

あぶくま高原道路は、東北自動車道矢吹 IC と磐越自動車道小野 IC を結ぶ延長35.9kmの自動車専用道路です。福島空港へのアクセス向上や地域

間の連携交流促進、地域経済の活性化などを図ることを目的として平成23年に開通しました。

このうち、矢吹中央 IC から玉川 IC までの延長6.6kmの有料区間の管理・運営を福島県道路公社が行っています。

ふくしま復興再生道路 「県道吉間田滝根線(広瀬工区)」の 開通

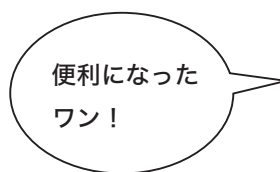
令和6年4月13日には、国土交通省（直轄権限代行事業）と県が整備を進めてきたふくしま復興再生道路の「県道吉間田滝根線(広瀬工区)」延長9.2kmの区間が開通したところです。この開通は、自動車専用道路区間が小野 IC から東側の滝根 IC まで延伸されるとともに、県道小野富岡線までの急カーブや狭小区間が解消され、県中・県南地域と相双地域間の道路ネットワークに大きな変化をもたらしました。

このことにより、相双地域と県中・県南地域を結ぶ広域的な物流道路として、避難指示解除区域などのさらなる復興や地域の持続可能な発展の基盤となることが期待されています。また、川内村から公立小野町地方総合病院までの搬送時間を8分短縮するなど、日常的な通院や安静搬送による

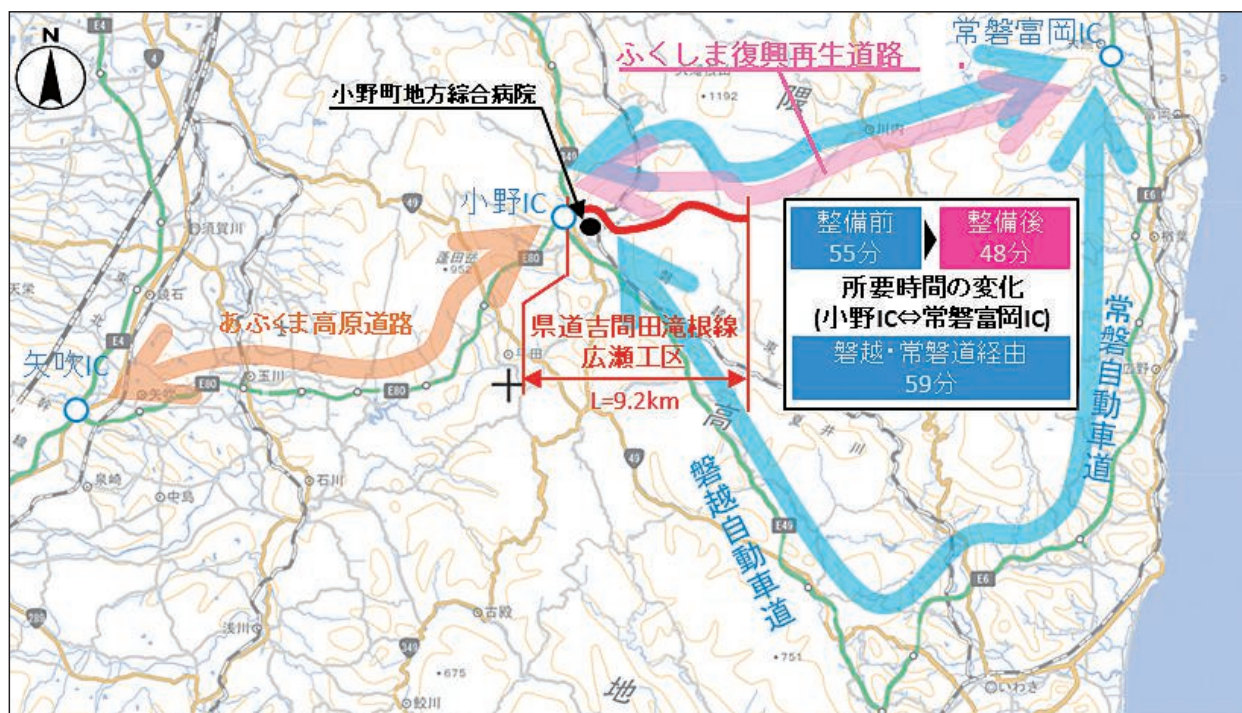


上空から見た小野 IC の様子

患者の負担軽減にも繋がり、地元の方々からも開通が喜ばれております。



とうろく君



終わりに

あぶくま高原道路は信号機がなく、目的地まで快適なドライブをお楽しみいただくことができます。周辺には、「あぶくま洞」をはじめ、温泉や花の見どころなど、家族で楽しめる観光スポットがたくさんありますので、ぜひご利用ください。

問い合わせ先

- 県道吉間田滝根線に関すること
県庁道路計画課
電話：024（521）7472
- あぶくま高原道路に関すること
福島県道路公社
電話：0248（41）2171

福島県道路公社

検索



あぶくま高原道路

県道 小野富岡線と直結したことによる整備効果→



○県中・県南地域と相双地域のアクセスが大幅に向上！(※)

○相双地域から福島空港への移動時間が短縮！(※)

福島県道路公社

※福島空港から国道288号経由で原子力災害伝承館までの時間 約1時間50分
福島空港からあぶくま高原道路、小野富岡線経由で原子力災害伝承館までの時間 約1時間30分

地域の魅力

～ 東北の玄関口 ～

自然を愛し、
郷土の歴史を紡ぐまち



渡部 正義
南会津町長

● 南会津町の概要

南会津町は、福島県の南西部に位置し、総面積は886.47km²で、その約92%が森林で占められています。南は栃木県那須塩原市・日光市に隣接しており、東北地方の南の玄関口となる地域です。

自然豊かで、世界的にもまれな台形状の山頂湿原を有する尾瀬国立公園田代山をはじめ、国指定天然記念物の駒止湿原など、原生のままの貴重な自然が多く残っているほか、日本海へ注ぐ阿賀野川の源流地域となっています。

気候は、夏は朝夕しのぎやすく、冬は2mを超える積雪がある特別豪雪地帯です。会津高原の冷涼な気候のもとで生産される農産物が多くあり、特にアスパラガスと南郷トマトは特産品として多くの人に愛されています。また、清らかな湧水で

醸造される南会津の清酒は、総じて、口当たりがやわらかく、米由来の優しい甘みと、南会津ならではの水質と醸造環境（豪雪）によって酵母の特徴であるフルーティーさが引き立てられ、後味がすっきりとしている点に特徴があります。



南郷トマト



アスパラガス



南会津町 地酒

令和6年8月30日には、国税庁長官より地理的表示「GI南会津」の指定を受けました。酒類としては、全国17例目、福島県内では初めての指定となります。また、小規模自治体、町単独では全国初となります。

●歴史と文化の継承 会津田島祇園祭

約820年の歴史をもつ会津田島祇園祭は、鎌倉時代の文治年間（1185年頃）、時の領主長沼宗政の祇園信仰により、この地に祇園の神（牛頭天王須佐之男命）を居城鎮護の神としてまつり、祇園祭の制を定め、旧来よりの田島鎮守の田出宇賀神社の祭りと共に行われた事が起源とされています。この祭りは古くより『西の祇園社、中の津島社、東の田出宇賀社』と言われ日本三大祇園祭の一つと称し伝えられています。

明治12年より田出宇賀神社の祇園祭日に併せ、隣地にまつる熊野神社祭礼を祇園祭の格例に準じて行うことが定められました。

会津田島祇園祭は、お党屋と呼ばれる組織を中心に運営されています。現在8組あるお党屋組が、

毎年交代で当番お党屋となり、1年間党本の家を支えて祭事を担当する制度によって運営されています。当番お党屋組を中心に、去年のお党屋組「渡し」と、来年のお党屋組の「請取り」3組が織り成す祇園祭は1年がかりの大行事です。

会津田島祇園祭の見どころの一つである「子供歌舞伎」は、夕方から運行する4台の屋台の上で、上演されます。また、2日目の朝には当番のお党屋本から神前へのお供え物を献上するために運び歩く「七行器行列」が行われ、たくさんの花嫁衣裳の女性たちが並んで歩く様子から「花嫁行列」とも呼ばれています。

祭りの賄い献立に「ふき」を多く使用することから、俗に「富貴祭＝ふきまつり」とも呼ばれています。また御神酒に濁酒を使用することから「どぶろく祭り」、屋台の運行が激しいことから「けんか祭り」とも呼ばれます。

昭和56年には、国の重要無形民俗文化財に指定され、その後も町民が文化の継承と努力を続け、現在まで受け継がれてきました。今後も会津田島祇園祭の伝統と文化を町民とともに守り、地域活性化のために町をあげて盛り上げていきます。



会津田島祇園祭 子供歌舞伎



会津田島祇園祭 七行器行列



たかつえスキー場

● 南会津町が誇る4つのスキー場

南会津町は平成18年3月に田島町、館岩村、伊南村、南郷村の1町3村が合併して誕生しましたが、それぞれの地域にスキー場があり、現在も南会津町には個性的な4つのスキー場があります。

だいくらスキー場はワイドなコースレイアウトとバリエーションに富んだゲレンデで初心者から上級者まで楽しめます。初級・中級者向けのフリーライドパークやウエーブなども設置されています。

たかつえスキー場は東北屈指のビッグゲレンデであり、5kmの斜面に全15コースで初心者から上級者まで幅広く楽しめます。モーグルのコースもあり、アスリートの練習や大会などにも使用され

ています。また、たかつえスキー場では、山頂まで雪上車で案内する「たかつえスノーキャットツアー」が行われ、樹氷、霧氷の鑑賞ができるのも好評です。

高畑スキー場は、傾斜の変化にとんだ最長3.5kmの10コースが自慢です。プライベートで使えるレンタルコースやウエーブ、モーグル初心者に最適な傾斜面のコブから急斜面のコブなど滑りごたえ十分です。スクールのメニューも充実していて、初心者から本気で上達を目指すリピーターまで好評を得ています。

南郷スキー場は全長3kmのコースであり、中腹には、全長1kmのファミリーゲレンデとフリーパークエリアがあり、スノーボードの練習に最適です。

特別豪雪地帯の南会津町にとって、スキー場は冬の環境を最大に活かした施設であり、多くのスキーヤーが県内外から訪れます。スキー場周辺には温泉や道の駅、宿泊施設等があり、ウィンタースポーツを楽しんだ疲れを、ゆっくりと癒すことができます。夜空には満天の星が耀き、「南会津町の星空に感動した」という声も多く聞きます。

全国でも珍しい4つのスキー場を有する南会津町。ウィンタースポーツを楽しんだ後も地酒や温泉、星空等楽しめるものがたくさんありますので、是非遊びに来てください。



赤岩荘

県内経済は、公共投資や住宅投資が低い水準にあり、全体的に弱含みで推移している。

1. 県内経済動向 (2024年8月の統計資料などを基に取りまとめたものです。)

項目	今月の動向	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	前月に回復の兆しをみせた公共投資と住宅投資の水準は再び低下した。消費動向では乗用車販売台数などに弱さがみられる。全体的に弱含みで推移しており、引き続き消費動向などを注視していく必要がある。		
消費動向	消費動向は、百貨店・スーパー、コンビニ、ドラッグストアの販売額合計が前年同月比プラス0.4%と上昇したものの、物価上昇を勘案すれば実質的にはマイナスとみられる。乗用車販売台数は、新車と中古車とも前年比減となり、合計で2カ月ぶりに前年を下回った。		
公共投資	公共投資は、公共工事前払保証請負金額が2カ月ぶりに前年を上回ったものの、発注額そのものは依然低い水準が続いている。		
設備投資	民間非居住用建築着工は、棟数、床面積と工事費予定額がいずれも前年を下回った。工事費予定額は、前年同月比で「運輸業用」と「農林水産業用」の△21億円など減少した業種が多く、全体として前年同月比25億円減少した。		
住宅投資	新設住宅着工戸数は4カ月ぶりに前年を下回った。利用関係別にみると、「持家」が前年比△20.8%、「貸家」が同△28.7%と前年を下回った。「持家」は2カ月連続、「貸家」は5カ月ぶりでの前年同月比減となった。		
生産活動	鉱工業生産指数は、季節調整済指数が103.0で前月比△0.9%となった。業種別にみると、前月比上昇が「窯業・土石製品工業」(前月比+5.5%)など12業種に対し、低下が「化学工業」(同△15.7%)「木材・木製品工業」(同△15.2%)など7業種となり、全体で前月を下回った。		
雇用動向	有効求人倍率は季節調整値が1.24倍で前月比△0.01ポイントとなった。「サービス職業従事者」や「建設・採掘従事者」などの職種で求人数が求職者数を大幅に上回る一方、「事務従事者」は大幅に下回っている。雇用保険受給者実人員は前年比△0.0%と11カ月ぶりに前年を下回った。		

- 注1：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（：改善、：不変、：悪化）を示し、当月と前月における3カ月加重移動平均の前年同期比を比較して判断。
- 注2：「水準」は現在における景況の水準を示し、当月の3カ月加重移動平均値と過去5年間の平均値を比較して判断しており、「変化方向」が改善または悪化の場合に、「水準」が必ず変化するわけではない。
なお、公共投資および設備投資は6カ月加重移動平均値による判断。
- 注3：「景況判断」は、注1および注2の通り、中長期的な指標を基に判断しているため、「今月の動向」と異なる場合がある。
- 注4：鉱工業生産指数は7月データ。
- 注5：鉱工業生産指数の季節調整済指数、有効求人倍率の季節調整値は、月による稼働日数の違い、正月や年度末の決算などの社会慣習など、季節変動の影響を取り除くことで前月や前々月との比較を可能にしたもの。

(天気図(水準)の意味)

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良
い
悪
い

電子ブック版では目次記載の全ての記事をご覧ください。

